

なごや生物多様性センター10周年

生きものシンフォニー



いのちがやくなごや



令和3年12月35号

特集

なごや生物多様性センター 10年の軌跡

なごや生物多様性センター（以下、センター）は、2010年に「生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）」が名古屋市で開催されたことをきっかけに、2011年9月2日に設立し、今年10周年を迎えました。

今号では、これまでのセンターのあゆみを振り返ります。



センター正面

植田川から見た
センター

CONTENTS

特集

なごや生物多様性センター 10年の軌跡 P1～4

TOPICS なごや生きもの一斉調査2021 ～テントウムシ編～ P5

掲 示 板 なごや生物多様性センター・なごや生物多様性保全活動協議会設立10周年記念
オンラインシンポジウム参加者募集! P6

令和4年度 なごや生物多様性保全活動協議会助成金 助成団体募集 P6



10年の軌跡

センターができる前、名古屋市では都市化による市街地の拡大や、外来生物の侵入などによって、生物多様性が失われつつありました。その一方で、自然環境を保全する市民の活動は地道に行われてきました。

2006年9月、名古屋市と愛知県、名古屋商工会議所、(社)中部経済連合会の4者で、COP10の誘致を国に要望し、2008年5月のCOP9において、COP10が2010年10月に名古屋市で開催されることが決定されました。

COP10開催

2010年10月、名古屋国際会議場において、COP10が開催されました。

COP10の成果は、生物多様性に関する2020年までの新たな目標として、愛知目標が採択されたことと、遺伝資源のアクセスと利益配分に関する名古屋議定書が採択されたことです。



COP10オープニング



名古屋議定書採択の瞬間



生物多様性交流フェア

写真提供：日本政府（左・中）

2008年 COP10の名古屋市での開催が決定

2010年 10月 COP10が開催

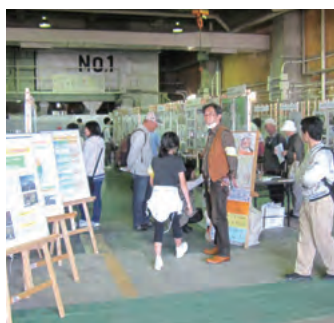
2011年 9月2日 センターを設立

COP10の成果とセンターの設立

名古屋市にとっては、市民・事業者・行政が、生物多様性の保全を地球規模の問題として認識する契機となったことと、市民の生物多様性に対する認知度が向上し、身近な自然を守る活動が活発になったことも大きな成果でした。

活発化した身近な自然を守り育てる活動を継続・発展させるため、市民協働による生物調査・保全活動を推進するとともに、なごやの生物情報を蓄積・発信し、次世代に継承することを目的に、天白区にある用途廃止した不燃ごみの中継施設を再利用し、2011年9月2日にセンターを設立しました。

センター開設記念行事



センター開設記念行事（2012年5月12日、13日）

センターは市民団体、専門家、行政等による協働のプラットフォームである「なごや生物多様性保全活動協議会」の事務局を担っており、この協議会と連携して身近な自然や生きものに関心を持っていただく活動を行っています。

また、関わりのある保全団体や学校の皆さんが集まる機会をつくり、連携・交流の輪を広げています。



一斉調査・サマースクールの開催

2012年には、「なごや生きものの一斉調査」と「なごや生物多様性サマースクール」をともに初開催しました。現在まで毎年継続して行われています。

一斉調査は毎年生きもののテーマを変えて行っており、またサマースクールでは子どもたちが夏休みの自由研究に生かせるように多様な講座を開くなど、さまざまな生きものと触れ合える機会を提供しています。



なごや生きものの一斉調査



なごや生物多様性サマースクール



2012年 1月 一斉調査を初開催
8月 サマースクールを初開催

2014年 5月 センターまつりを初開催

センターまつり/ユースひろば

「なごや生物多様性センターまつり／生物多様性ユースひろば」は、関わりのある保全団体や研究・教育機関、中学・高校の生物部等の皆さんに集まっていただき、ブース出展やステージ発表を通して、市民の皆さんに生きものの魅力や、自然環境を守ることの大切さをお伝えするとともに、出展者同士が交流できる場を提供するイベントとして、2014年から開催しています。



なごや生物多様性センターまつり(2014年5月10日)

センターでは、広報活動も積極的に行ってきました。

絶滅のおそれのある生きものについて取りまとめた、「名古屋市版レッドリスト」「レッドデータブックなごや」を公表し、名古屋の希少な生きものについての普及啓発を行っています。さらに、2020年にはウェブサイト「なごや生きものライブラリー」を開設し、ウェブでの情報発信も強化しています。

2021年、10周年を迎えたセンターは、これまで以上に積極的に生きものの情報を収集・発信し、生物多様性の保全に貢献していきます。

名古屋市版レッドリスト・ レッドデータブックなごやの作成

名古屋の絶滅のおそれのある生きものについて調査を行い、その結果を2015年の3月に、「名古屋市版レッドリスト2015」として公表し、同年4月には、「レッドデータブックなごや2015 動物編・植物編」を発行(※)しました。

レッドリストとは、絶滅のおそれのある野生生物種のリストのことで、生物学的な観点から個々の種について調査し、絶滅の危険度を評価してまとめたものです。

一方、レッドデータブックとは、レッドリストに掲載された種の生息・生育状況や特徴について種ごとにまとめたものです。

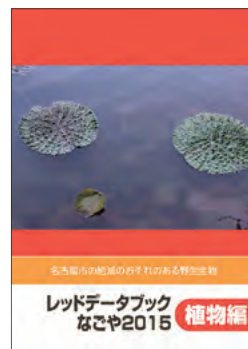
※それ以前は他の部署が作成



ヤマトサンショウウオ
絶滅危惧IA類 (CR)



マメナシ
絶滅危惧IB類 (EN)



レッドデータブックなごや2015
(動物編・植物編)

2015年 3月
レッドリスト・レッドデータブックを公表

2020年 3月
なごや生きものライブラリーを開設

なごや生きものライブラリーの開設

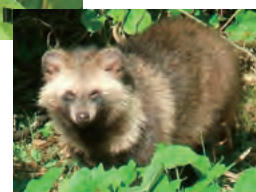
2020年3月には、センターのウェブサイトである「なごや生きものライブラリー」を開設しました。このサイトは、名古屋の生きものの情報を、フォトギャラリーやコラム等で紹介しています。さらに「生きものマップ」では、市民の皆さんが目撃した生きものの写真を、地図情報と連携して投稿することができます。



なごや生きものライブラリー



ツマグロヒヨウモン



タヌキ

目撃した
生きものを投稿!



生きものマップ

次なる10年に向けて、さらにセンターは発展していきます!

なごや生きものの一斉調査2021 テントウムシ編

なごや生物多様性保全活動協議会（なごビオ）が開催する、毎年恒例の「なごや生きものの一斉調査」。
今年は「テントウムシ」をテーマに行いました。

まん丸なフォルムに鮮やかな模様を持つ、かわいらしい「テントウムシ」。虫は苦手でもテントウムシは大丈夫という方も多いのではないのでしょうか。

今年は、そんなテントウムシを対象に、市外の保全団体なども参加して市内外85カ所の公園や緑地などで一斉調査を開催。専門家や親子連れが参加し、テントウムシを採集しました。



どこに
いるんだろう...

かわいい姿で肉食系なテントウムシ

世界に約6,000種、日本では201種が確認されているテントウムシ。種類ごとに肉食や草食など、多様な食性を持つことから、その分布によって生態系の豊かさを知ることができます。

一般的にイメージされる、赤地に黒い斑点七つのナナホシテントウをはじめ、約50種が確認されている名古屋市。今回の調査では、一体どれだけのテントウムシが見つかったのでしょうか。

参加者は、まず講師からテントウムシの見つけ方をレクチャー。テントウムシは肉食が多く、アブラムシがついている植物などに見られ、葉っぱの先端にいたり、ほかには樹木のくぼんだところで休憩していたりするそうです。さらに、かなり小さなテントウムシもたくさんいるため、講師から「小さくても丸い虫はすべて捕まえて」との呼びかけも。それを参考に、参加者はさっそく調査を開始。木の枝や草などを棒で叩き、下に落ちた昆虫を捕虫網等で受け取る「ビーティング」や、草の上を掃くように捕虫網を振って採集する「スウィーピング」という方法で、公園や緑地内をくまなく探していきました。



見分けにくい小さな種類も

始めはなかなか見つけれなかった参加者も、次第に目視でも確認できるように。講師から「こちらへんにいるよ」と聞くと、勢いよく駆け回り夢中になっていました。

枝先や植え込み、葉っぱの裏など、さまざまな場所で採集したテントウムシは、どんな環境で採れたのかも含め、透明のチャック袋に1匹ずつ保管。その後、大きさや模様、色など見分け方のシートをもとに、同定作業を実施していきました。実は、テントウムシは体長1cm未満の種類がほとんどで、なかには3mm以下の種類もたくさんいるとのこと。

今回見つかったのも、ダングラテントウやアカホシテントウ、クロツヤテントウなど1cm未満ばかり。その場では見分けられないほど小さな種類もたくさん見つかりました。

詳しい調査結果は、この後まとめて報告する予定です。



なごや生物多様性センター・なごや生物多様性保全活動協議会
設立10周年記念

オンラインシンポジウム

参加者
募集!

日時

令和4年 1月22日(土) 午後1時～5時

主な内容

- 〔基調講演〕 五箇公一 氏(国立環境研究所 生物多様性領域室長)
「ワンヘルス ～生物多様性保全と感染症管理～」
- 〔提 言〕 香坂 玲 氏(名古屋大学大学院 環境学研究科教授)
「愛知なごやから考える生物多様性のこれからの10年」
- 〔座 談 会〕 なごや生物多様性保全活動協議会(なごビオ) 幹事 他
「センター／なごビオの未来」

申込方法

電子メールにてご応募ください。

✉ bdnagoya@kankyokyouku.city.nagoya.lg.jp

件名に「シンポジウム視聴希望」と記載ください。

締切

令和4年
1月17日(月)



令和
4年度

なごや生物多様性保全活動協議会助成金 助成団体募集

なごや生物多様性保全活動協議会では、自然環境保全の“後継者育成を目的とする活動”を支援することで、次世代の担い手づくりやこれからの自然環境保全活動の創出を応援しています。

令和4年1月4日から2月4日まで、令和4年度の助成団体を募集します。助成金交付要綱など、詳しくは協議会のウェブサイトをご覧ください。



協議会ウェブサイト <http://www.bdnagoya.jp>

問い合わせ・申し込み先

発行：名古屋市環境局なごや生物多様性センター

住 所 〒468-0066 名古屋市天白区元八事五丁目230番地

電 話 052-831-8104(平日 8:45～17:30) FAX 052-839-1695

E-mail bdnagoya@kankyokyouku.city.nagoya.lg.jp

地下鉄塩釜口駅

2番または3番出口から
徒歩5分



なごや生きものライブラリー

なごや生きものライブラリー 検索

<https://ikimono.city.nagoya.jp/>



名古屋市公式ウェブサイト

<https://www.city.nagoya.jp/>

なごや生物多様性保全活動協議会

<http://www.bdnagoya.jp/>